

# ぐんま教師塾の1年を振り返って

## 中学校 理科班

昭和村立昭和中学校

学年（ 3 ） 七五三木 宏

太田市立尾島中学校

学年（ 2 ） 中村 和子

中之条町立中之条中学校

学年（ 3 ） 佐藤 憲司

## 1 班別研修に対する所感

我々の研修は、日々の学習指導の中でそれぞれの研修員が持っていた理科教育における課題を明確にすることから始まった。特に理科教育の本質である科学的な思考力とは何かについて話し合いを通して明らかにすることができた。また、授業実践の情報交換から、授業に直結する様々な指導法について学ぶことができた。

さらに、実験に関わる教材作りでは、質の高い教材の持つ魅力やおもしろさについて教わった。その全てが明日からの授業で使える現場に生きる研修内容であった。

## 2 多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

「塾から見た公立学校」では生徒に100%の結果を求めるより100%の満足を求めることを話された。そしてチームとして、教員間の意思統一をしっかりと、強い組織を作ることが求められていることに気付かされた。

「人の中で人は育つ」鹿嶋真弓先生の講演は、学級経営におけるエンカウターの重要性とその活用についてだった。生徒を束ねていく。その時、いかに生徒一人ひとりをほめるか、達成感を与えられるか、そして共通の課題へと凝集していけるかに取り組んでいかなければならない。

GTVアナウンサーの講演では話すためには①時間、②内容、③表現方法、④体調をきちんと管理することが大切であること。臨床心理士の講演では人間のもつ「枠組み」を意識して取り組むことが話を聞くとときに必要であることなど、気付かされた。

## 3 授業参観協力校等での授業参観に対する所感

自分と同じ教科を授業参観できる機会が少ないので非常に参考になった。特に生徒実験では

①様々な可能性を配慮した準備の大切さ

②扱う教材の価値についての理解

③教材によって問題解決のどこを重く扱うかの判断とそれに伴う時間配分

などについて良い参考になった。

また、生徒の課題解決力を育成するためには、生徒が自分なりの目的意識を持って実験・観察にとりくまなくてはならない。予想の時間を充分にとることの大切さについても学ぶことができた。今後の教育実践に生かしていきたい。

## 4 授業実践とその参観に対する所感

自己課題を解決していく上で、お互いの授業を参観し合い、意見交換をしあえたことは非常に有効であった。3年のエネルギーの領域での授業では、評価の客観性について、自己評価カードを活用して取り組んだが、基本的な考え方としては、教師と生徒がお互いに共有できる評価項目を設定することが重要であることが分かった。また、2年の化学変化の領域では、MD学習を効果的に取り入れることが、表現力を育成するのに有効な手段であることが分かった。さらに、3年の天文の領域では、授業の導入で、興味深い教師の話に加え、地球儀や写真などの具体物やパソコンのシミュレーションソフトなどを利用していくとより効果が高まることが分かった。